

2024 年度の活動報告

総務

(1) SRID 会長の逝去

2024 年 3 月より入院治療されていた湊直信元会長が、急性白血病のために同年 9 月 22 日に逝去された。享年 74 歳。生前の SRID に対する深い思い入れと、温かいご指導に改めて感謝する。これに伴い、松田教男代表幹事が会長代行を務めた。葬儀については Newsletter 10 月号(No.542)を参照。

(2) 会員数

- ・ 2024 年度は入会者 8 名、退会者 7 名であった。年度末会員数は 2023 年度より 1 名増の 79 名となった。うち女性会員は 22 名(28%弱)である。
- ・ 入会者 8 名(敬称略)
李 Chen Wei (4 月 1 日付) 山崎三佳代 (5 月 21 日付) 黒田和秀 (7 月 16 日付)
高橋舞子 (7 月 19 日付) 中村 司 (7 月 22 日付) 竹内北斗 (9 月 24 日付)
山田直之 (10 月 5 日付) 原 祥子 (10 月 31 日付)
- ・ 退会者 7 名 (3 月 31 日付)
湊 直信氏(死去) 中島千秋氏 相川明子氏 鈴木智良氏 高田有一郎氏
和気邦夫氏(死去) 奈良玲子氏

(3) 年会費収入

2024 年度の年会費納入者は 82 名、収入額(2023 年度の前納金 4,000 円を除外)は 321,000 円と、2023 年度の 301,500 円に比べて 19,500 円の増収となった。

(4) 会員紹介

SRID Newsletter「新会員紹介」において 5 名の新入会員が自己紹介を行った。

乙部尚子「国連機関勤務 35 年間を振り返って」 2024 年 4 月号
国吉竜太「イギリスの大学で知る多様性と意識の高さ」 同 7 月号
保科研吾「私にできること」 同 10 月号
森嶋洋子「無駄な経験は何もない」 2025 年 2 月号
山崎三佳代「食文化から知る世界各地の生活、文化、歴史」 同 3 月号

全体行事

(1) 第 51 回年次総会(対面とオンラインで開催)

- ・ 2024 年度の総会は 4 月 27 日(土) 12:00~15:30 に JICA 地球ひろば大会議室で対面と Zoom によるハイブリッドで開催した。参加者は 22 名(来場者 15 名、オンライン参加者 7 名)であった。病気入院のため欠席された湊会長に代わり、松田代表幹事が開会の挨拶と司会を担当した。希望者から 1,000 円を徴収してサンドイッチとコーヒーを提供した。
- ・ 2024 年度予算に関する審議では、①システム開発委託費の 10 万円を 50 周年記念行事の開催費に充当する、②大来基金(2023 年度末残高 169,714 円)よりキャリア開発事業会計への繰入金 2.5 万円を除く 144,714 円を一般会計に繰り入れて大来基金を廃止する、の 2 点を修正して採決を行った結果、いずれの議案も賛成多数により可決された。
- ・ 2024 年秋に開催予定の 50 周年記念行事の内容と形態について、SRID の知性を結集して外部に発信する良い機会であり、会員中心の記念フォーラムでは内向き過ぎるのではない

か、との問題提起に対し、フォーラムでは参加者全員によるスピーチマラソンを提案しており、「新しいこれからの開発」を念頭に、参加者が自由に発言する場とすることを考えている、などの意見が続き、審議時間を延長して3時間を超える総会となった。Newsletter 5月号(No.539)に議事録を掲載した。

(2) SRID 設立 50 周年記念行事

(ジャーナル記念特集)

- 7月31日(水)にSRID ジャーナル第27号を「SRID 設立 50 周年記念号」として、「これまでの、そして、これからの開発協力(実務者・研究者集団からの視点)」をテーマとするSRID 設立 50 周年記念エッセイ8編を中心に編集し、発行した。

(記念サロン)

- 9月21日(土)12:00-15:00に新入会員4名を含む16名が参加して、50周年記念サロンを開催した。場所は東京グリーンパレス「雅の間」。初めに、SRID の創設メンバーであり、サロン・エカポール開設者の藤村建夫会員より、SRID における50年間のサロン活動の歴史について説明があった。各自が自己紹介スピーチを行った後、10名の有志が趣味と特技を順次披露して盛り上がった。

(記念フォーラム)

- 11月16日(土)14:00-17:00に43名(対面29名、Zoom14名)が参加し、JICA 地球ひろば600号室で50周年記念フォーラムを開催した。
- 「激動する国際環境のもと、開発とSRID の今後の活動を展望する」というテーマで、第1部では、パネル討論①「開発環境の変化とSRID の50年」(パネリスト:藤村、大嶋、中野(幸)、司会:神田)、②「これからの開発とSRID を考える」(パネリスト:落合、北丸、神森、森、司会:中嶋)を行った。第2部のグループ討論では参加者全員を4チームに分け、①ポストSDGsを考える、②日本の特色ある協力を考える、③グローバルサウス時代の開発協力を考える、④地球環境問題を考える(全体司会:奈良)、を実施した。
- 終了後、地球ひろば2階のJ's Café に移動して懇親会を開催し、設立50周年を祝して賑やかに懇談した。

(活動年表)

- 記念資料として、神田道男会員が作成した「SRID50年の歩み」(シンポジウムのテーマの変遷、活動年表、懐かしの写真集)を配布した。これらをSRID Homepage に掲載することを検討中。
- SRID Newsletter 12月号(No.543)を「50周年記念特集号」として発行し、サロン及びフォーラムの概要と写真を掲載した。

幹事会

第1回幹事会

5月8日(水) 勉強会のとりまとめ、SRID ホームページの更新、Zoom 契約、「50周年記念フォーラム」企画運営委員会の設置等について検討した。幹事会を毎月第2木曜日に変更。

第2回幹事会

6月8日(木) 「50周年記念フォーラム」について、第1部をパネル討論、第2部をグループ討論とし、全員参加型の討論会とすることで合意した。

第3回幹事会

7月18日(木) ジャーナル編集委員会は湊編集委員長の辞任を受けて6月26日に編集委員会を開催し、後任として山岡和純編集委員を編集委員長に選出した。キャリア開発事業では鈴木運営委員長が5月30日に神戸外国語大学の学部生を対象に、オンラインでキャリア開発に関する特別講義を行った。

第4回幹事会

8月8日(木) 勉強会の報告内容を「Offer 型協力」に絞ることで、盛り込むべき内容を明確にした。9月21日に「50周年記念サロン」を麹町の「東京グリーンパレス」で開催する。「50周年記念フォーラム」を11月16日に JICA 地球ひろば 600 号室で開催する。終了後、J's カフェで懇親会(立食パーティ)を開催する。

第5回幹事会

9月12日(木) ジャーナル第27号を「設立50周年記念号」として7月31日に発行した。「SRID キャリア開発」第7号を9月末に配信予定。50周年記念フォーラムでは第1部でシニアと若手の代表者によるパネル討論を行い、第2部で全員参加のグループ討論を行う。

第6回幹事会

10月10日(木) 事務局より湊会長の逝去と葬儀について報告した。9月28日の葬儀には11名の SRID 会員が参列した。ジャーナル編集委員会で既存のジャーナル掲載記事の削除について協議した。

第7回幹事会

11月14日(木) キャリア開発事業の IDPC 研修(国際開発プロフェッショナル・コース)前後の2ヵ月間に限定して、専用の Zoom 契約を結ぶことにした。50周年記念フォーラムの参加者と経費、第1部のパネリスト、第2部のグループ分けが決まった。

第8回幹事会

12月13日(金) 50周年記念フォーラムは、若手を含む多くの会員の参加を得て内容が充実して好評であった。また、懇親会の経費は3000円の参加費でほぼ賄われるなど、最小限の費用で開催できた、との報告があり、企画運営委員に対する謝意が述べられた。12月9日に第2回 SRID ジャーナル編集委員会が開催され、特集のテーマを「中所得国の罠」として目次を確定した。編集の基準となる編集要領を作成するとともに、第28号から新たに英語のタイトル／アブストラクトを記述し、英語圏の読者へのアピールを図ることとした。

第9回幹事会

2025年1月8日(水) 一般会計の剰余金が200万円弱まで増えているため、2025年度年会費を減額してはどうか。また、懇談会の講師を依頼された場合は、会員であっても謝金を支払ってはどうか、との提案がなされた。

第10回幹事会

2月12日(水) オンライン懇談会の予定、ジャーナルの執筆謝金、「キャリア開発」の発行、勉強会の報告予定、年会費の値下げ提案、次期会長人事等について協議した。4名の幹事より退任の意向が示されたため、幹事の補充について検討する。

第11回幹事会

3月12日(水) 2025年度に開始される「官民連携型開発協力に係る勉強会」の企画書案が澤田直孝会員より提出され、新たな勉強会の設置が承認された。

第12回幹事会

4 月 9 日(水) 前回の幹事会で承認された「官民連携型開発協力に係る勉強会」企画書の改定案(発起人の交代等)が承認された。第 52 回年次総会議案書(最終案)を確認した。SRID 会則の改訂(年会費の減額)、役員改選等について対応を協議した。総会終了後の懇親会の開催について了承した。

懇談会(オンラインで開催)

- ・ コロナ禍の為に 2020 年度よりオンライン開催とした懇談会は、2024 年度目標の計 4 回の開催ができた。毎回、SRID 会員 25 名程度を含む、定員 100 名を超える参加申し込みがあり、SRID の対外発信プラットフォームの一つとして、引き続き定着している。
- ・ オンライン開催と合わせて、グーグルフォームによる懇談会参加申込を採用していることで、幹事の負担が大幅に軽減されている。さらに、グーグルフォーム書式内に SRID 入会の有無、及び SRID ジャーナル配信希望とキャリア開発塾カウンセリング受講希望に関する質問を入れていることで、それぞれの申込増加に繋がっていると思われる。
- ・ 以前の対面懇談会後に開いていた講師を囲むネットワーク懇親会は、オンライン開催のため残念ながら開催できていない。懇談会報告は引き続きそれぞれ直近のニューズレターに掲載した。(小林_文)

第 1 回懇談会

7 月 26 日(金) 20:00~22:00 講師は小ロー彦氏(EBRD 事務局長) テーマは「欧州復興開発銀行の課題と対応:ウクライナ支援、気候変動への対応を中心に」

第 2 回懇談会

9 月 27 日(金) 20:00~22:00 講師は井上侑一郎会員(IFC コロンビア・上級投融資担当官)
テーマは「MDBs 最前線からの報告—中南米インフラ分野におけるファイナンスニーズの変化と最新潮流」

第 3 回懇談会

12 月 18 日(水) 20:00~22:00 講師は宮田春夫氏(元新潟大学教授) テーマは「開発と環境—国連の 55 年」

第 4 回懇談会

2025 年 2 月 19 日(水) 20:00~22:00 講師は乙部尚子会員(元 ILO 雇用政策局専門官)
テーマは「仕事の世界の動向・課題・政策:ジェンダーの視点から」

SRID フォーラム(ハイブリッドで開催)

- ・ 国際開発協力は、南の途上国と北の先進国による南北問題の解決から開始されたが、世界は、経済成長を遂げたグローバルサウスの国々を間に挟み、民主主義国家と権威主義国家が争う構図に変化してきている。国際開発協力の直面する新たな状況の中で設立 50 年を迎えた SRID の果たすべき役割、国際開発協力の今後を考えるべく、「激動する国際環境のもと、開発と SRID の今後の活動を展望する」をテーマに、SRID 設立 50 周年記念事業として 2024 年度の SRID フォーラムを開催する。
- ・ SRID フォーラムは、2024 年 11 月 16 日(土)14 時~17 時(日本)、市ヶ谷の JICA 地球ひろば 600 号室を会場として開催した。会員の他、会員や学生部の OB、OG、キャリア開発登録者にも参加を呼びかけ、43 名(対面 29 名、Zoom14 名)が参加した。懇親会では旧交を温めることができて、盛会であった。(神田)

ニューズレター

No. 538 (2024 年 4 月号)

神田道男: 第 6 回 SRID Forum 報告「混迷する世界と SDGs—開発協力の現在」

山下道子・松田教男: 第 6 回勉強会報告「ミャンマー情勢について」、「『Offer 型協力』に係る追加情報」

乙部尚子: 新会員紹介「国連機関勤務 35 年間を振り返って」

No. 539 (2024 年 5 月号)

山下道子: 第 51 回 SRID 年次総会開催報告

松田教男: 第 7 回勉強会報告「昨今の世界情勢と途上国の現状他」

福田幸正: 会員エッセイ「ラニア(パレスチナ人)との交換メール」

No. 540 (2024 年 7 月号)

福島茂: 自論公論「災害復興を巡る国内議論と国際防災協力」

高千穂安長・荒木元世: 第 13 回 SRID サロン報告「防災国際協力の課題と対策」

国吉竜太: 新会員紹介「イギリスの大学で知る多様性と意識の高さ」

No. 541 (2024 年 9 月号)

山下道子: 自論公論「ミャンマー支援に見る日本の ODA 政策」

小林文彦: 第 1 回 SRID 懇談会報告 講師は EBRD の小ロー彦・事務局長「欧州復興開発銀行の課題と対応: ウクライナ支援、気候変動への対応を中心に」

福田幸正: 第 8 回 SRID 勉強会報告「開発政策借款(DPL)の事後評価」

No. 542 (2024 年 10 月号)

落合直之: 記念シンポジウム報告「バンサモロ包括和平合意締結 10 周年」

保科研吾: 新会員紹介「私にできること」

山下道子: 事務局報告「湊会長の葬儀に参列して」

No. 543 (2024 年 12 月号)

神田道男: SRID50 周年記念フォーラムの報告「激動する国際環境のもと、開発と SRID の今後の活動を展望する」

小林文彦: 第 2 回懇談会報告 講師は井上侑一郎会員「MDBs 最前線からの報告—中南米インフラ分野におけるファイナンスニーズの変化と最新潮流」

山下道子: SRID50 周年記念サロン概要報告

No. 544 (2025 年 1 月号)

松田教男: 自論公論「2025 年の年頭所感—トランプ 2.0 と世界の行方」

林 薫: エッセイ「私とヴァイオリンとの出会い」

No. 545 (2025 年 2 月号)

神田道男: 自論公論「脱炭素化の現状(その1)」

小林文彦: 第 3 回懇談会報告 講師は宮田春夫氏「開発と環境—国連の 55 年」

森脇洋子: 新会員紹介「無駄な経験は何もない」

No. 546 (2025 年 3 月号)

神田道男: 自論公論「脱炭素化の現状(その2)」

小林文彦: 第 4 回懇談会報告 講師は乙部尚子会員「仕事の世界の動向・課題・政策: ジェンダーの視点から」

山崎三佳代: 新会員紹介「食文化から知る世界各地の生活、文化、歴史」

SRID ジャーナル

(1) 編集委員会の開催

2024 年度は湊直信編集委員長以下、佐藤桂子、高橋一生、玉置佳一、中島千秋、福田幸正、山岡和純の各委員 7 名で編集委員会を構成した。なお、湊直信編集委員長の辞任を受けて、6 月 26 日の第 2 回編集委員会で、後任として山岡和純委員を編集委員長に、佐藤桂子委員を副編集委員長に選出した。編集委員会を 4 月 3 日(水)、6 月 26 日(水)、9 月 19 日(木)、12 月 9 日(月)の 4 回開催した。

(2) 第 27 号及び第 28 号の発行

- ・ 第 27 号を 7 月 31 日に発行した。特集のテーマは「SRID 設立 50 周年記念:これまでの、そして、これからの開発協力(実務者・研究者集団からの視点)」とし、SRID 設立 50 周年記念エッセイ 8 編を中心に編集した。
- ・ 第 28 号を 2025 年 1 月 18 日に発行した。特集のテーマは「中所得国の罫」。2024 年夏に発表された世界銀行の WDR2024 をフォローすべく、新鮮な論点での執筆を多彩な論者に依頼した。

(3) 外部配信者数の増加

2025 年 3 月 4 日時点でのジャーナル登録者は 635 名と、順調に増加している。現時点まで登録解除依頼は来っていない。(山岡)

キャリア開発事業

(1) 運営委員会

鈴木委員長以下、神田道男、小林文彦、浪川真悠子、藤村建夫、森田宏子、山岡和純、の 7 名が運営委員を務めた。

(2) 事業の実施

以下の通り事業を実施した(表 A 参照)。

- 1) キャリア開発カウンセリング: 8 名に対して実施した。カウンセリングもしくは国際開発プロフェッショナル研修(IDPC)の受講生 3 名が世銀、AIIB、UNFPA に採用された。キャリア開発カウンセリングをきっかけに、2 名が SRID に入会、キャリア開発事業を通じて、SRID に入会した現役会員は累計 8 名となり、SRID 全会員数の約 1 割を占める。
- 2) ロスターの作成・運用: 累積 87 名登録。
- 3) 大学での特別講義: 神戸市外国語大学において実施。同校の担当教授および学生は 2025 年 4 月に国連と世銀を訪問した。
- 4) SRID 設立 50 周年記念特集を行った 7 月のジャーナルに、キャリア開発事業の紹介記事を掲載。
- 5) キャリア開発に役立つ情報の提供: 「SRID キャリア開発」を 3 月と 9 月に配信。

事業予算は IDPC 研修が隔年開催となり、2024 年度は開催されなかったため、収入・支出とも大きな動きは無い。若干の余剰金が 2025 年度に繰り越された。詳細は事業会計報告(p.14 の表 2)の通り。(鈴木^博)

表 A. 年度別キャリア開発事業実施状況(2016～2024 年度)

活動内容	2016～21 計		2022		2023		2024		2016～24 計	
	件数	受講者	件数	受講者	件数	受講者	件数	受講者	件数	受講者
学生団体と連携協力	13	123	終了	終了	終了	終了	終了	終了	13	123

カウンセリング	99	114	26	26	15	15	8	8	148	163
出張講座	63	1,122	0	0	0	0	1	20	64	1,142
IDPC 研修	1	13	2	19	1	21	0	0	4	53
女性フォーラム(注)	1	130	2	16	1	30	0	0	4	176
合 計	177	1,502	30	61	17	66	9	28	233	1,657
【広報活動】ロスター登録者数(累計)	--		31		47		87		87	
【広報活動】『SRID キャリア開発』発行数	--		2		2		2		6	

(注)国際開発分野で働く女性のためのフォーラム

勉強会

第 8 回勉強会

4 月 24 日(水) 検討テーマは「開発政策借款(DPL)の事後評価について」(発表者:福田幸正)。
概要を Newsletter 9 月号に掲載。

とりまとめに関する検討会

5 月 28 日(火) 2023 年 9 月から 2024 年 4 月まで、8 回に亘り開催した「日本の開発協力政策に係る勉強会」の取り纏めについて検討した。報告書は内容をオファー型協力に限定して作成することで合意。勉強会の経過、及び報告書の目次を巻末の別紙 1(p.26)に掲載した。報告書本体は 2025 年 7 月発行の Journal 第 29 号に掲載する方向で検討中。

新たな勉強会の設置を承認

2025 年度に開始予定の「官民連携型開発協力に係る勉強会」の企画書(巻末の別紙 2)が澤田直孝会員より提出され、4 月 9 日の第 12 回幹事会で改訂の後、設置が承認された。(松田)

SRID サロン

第 13 回 SRID サロン (オンラインで開催)

2024 年 7 月 3 日(水)20:00~21:45 に「防災国際協力の課題と対策」というテーマで、高千穂安長会員が防災会議での議論、荒木元世会員が現場での支援について報告した。高千穂会員は「理想(誰一人取り残さない)と現実(トリアージによる効用最大化)とのバランス確保が課題」、荒木会員は「公助・共助・自助が効率よく連携し、最大限の効果を発揮できるよう、事前の体制準備が必要」、と指摘した。報告及び質疑の概要は Newsletter 7 月号(No.540)に掲載。

50 周年記念サロン (対面で開催)

2024 年 9 月 21 日(土)12:00-15:00 に新入会員 4 名を含む 16 名が参加して記念サロンを開催した。場所は「東京グリーンパレス」レストラン「雅の間」。初めにサロン・エカポールの開設者である藤村建夫会員より、SRID における 50 年のサロン活動の歴史について説明があった。自己紹介スピーチの後、10 名の有志が趣味と特技を順次披露したため、会場は驚きと感嘆の声に包まれた。Newsletter 12 月号(No.543)に概要と写真を掲載。(山下)